

氏名	松 村 元 良
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1275 号
学位授与の日付	昭和57年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	側頭骨内顔面神経に関する発生学的研究 ——ヒト胎児における組織学的観察——
論文審査委員	教授 新見嘉兵衛 教授 村上宅郎 教授 大塚長康

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性外耳道閉鎖症をはじめとする伝音系奇形耳の手術の際、最も問題となる耳小骨ならびに側頭骨内顔面神経の解剖を理解するため、ヒト胎芽および胎児112耳の頭部連続切片を用いて形態発生を組織学的に観察した。今回、カーネギー式発生時期による分類を用い、しかも横断、前額断および矢状断の3方向から観察することにより、一層正確な形態学的検討を加えることができた。その結果、膝状神経節の形成には第2鰓弓鰓上板が、顔面神経の水平部・垂直部走行の形成にはアブミ骨原基が重要な役割を演じることが推測された。顔面神経管の形成には、内耳側は内耳骨包による軟骨性化骨、鼓室側壁は結合織性化骨により形成されることが確認された。そして、耳小骨の発生は、ツチ骨頭、キヌタ骨体はメッケル軟骨から発生し、ツチ骨柄、キヌタ骨長脚、アブミ骨はライヘルト軟骨から発生するとするAnsonらの説がほぼ首肯し得ると思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はヒトの各時期の胎芽および胎児を用いて顔面神経および耳小骨の初期発生を組織学的に追求したもので、この方面に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。